

授業科目(ナンバリング)	相談援助の理論と方法ⅡA (DA308)			担当教員	ヴィラーグ ヴィクトル		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉士（ソーシャルワーカー）に求められる専門力の向上を中心に取り組み、相談援助（ソーシャルワーク）において求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。</p> <p>具体的には、ソーシャルワークの対象、ケースマネジメント（ケアマネジメント）、様々な実践モデルとアプローチ、スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術について学ぶことをねらいとする。その中で、実践に対する理論的な思考を養い、実習に向けて求められる基礎的な理解を深める。</p>							①④⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ソーシャルワークに関する理論及び方法について説明できる。 ソーシャルワークに関する幅広い理論を理解できる。				定期試験 小テスト	30% 30%	
情報収集、分析力	ソーシャルワークについて調べ、伝えることができる。				グループ発表	10%	
コミュニケーション力	ソーシャルワークについて自分の言葉で表現できる。				単語帳	20%	
協働・課題解決力	ソーシャルワークに関するグループ活動に参加できる。				グループワーク	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（30%）では、ソーシャルワークの対象、ケースマネジメント、様々な実践モデルとアプローチ、スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術に関する知識の習得度を評価する（持ち込み不可；再試験を受ける場合に必ず事前に教員に相談すること）。グループ発表（10%）では、分担する課題について適切にまとめられるかを評価する。グループワーク（10%）では、グループ発表に向けた作業等における参加態度と貢献度を確認する。小テスト（30%）では、学んだ理論の理解度を問う。単語帳（20%）では、専門用語について自分の言葉で適切にまとめられるかを評価する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p> <p>なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>基本的には講義形式で授業を進めるが、レスポンスを使った社会福祉士国家試験の過去問題も頻繁に取り入れる。また、学習の幅を広げるために、講義の一部は、参考書に基づいた学生によるグループ発表とそれに対する教員の補足説明の形式をとる。ソーシャルワークの対象から出発し、ケースマネジメントをはじめとして各種実践モデル及びアプローチを学び、実習に向けてスーパービジョンや個人情報に関する基礎知識を得る。</p> <p>本科目の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈7〉相談援助の理論と方法Ⅱ（第3版）』中央法規出版。</p> <p>参考書：久保絃章・副田あけみ編（2005）『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店。</p> <p>指定図書：川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>社会福祉士国家試験受験資格の指定科目であるため、国家試験を意識すること。講義を軸にしなが、予習・復習の一環として教科書を事前・事後に確認し、専門書を読む習慣を身につけるなど、抽象度及び専門性の高い内容に対する理解を深められるように努力すること。専門知識を深めるために、参考書の輪読・講読を目指すグループ発表を定期的実施するが、担当者が準備に取り組むと同時に、聞き手は教員による講義と同等な姿勢で望むこと。</p> <p>なお、本科目専用のノートはもちろん、聞き慣れない専門用語について自分にとって分かりやすい言葉で記入する単語帳を導入することを強く勧め、定期的確認し、評価の対象とする。</p> <p>また、出席管理に影響するため、教員が示す座席指定表に従って座ること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価等の確認を行い、予備知識と期待を整理する。	予習：相談援助の理論と方法 I A・II B の復習 復習：シラバスの熟読
2	相談援助の対象	ソーシャルワークの対象の概念と範囲について学ぶ。	予習：教科書 1-20 頁 復習：小テストの準備
3	ケースマネジメントとケアマネジメント	ケースマネジメント（ケアマネジメント）の概要、過程、特徴について学ぶ。（小テスト①）	予習：教科書 27-58 頁 復習：小テストの準備
4	様々な実践モデルとアプローチ①	治療・生活・ストレングスマデルとその関係について学ぶ。（小テスト②）	予習：教科書 137-142 頁 復習：小テストの準備
5	様々な実践モデルとアプローチ②	心理社会的アプローチについて学ぶ。（小テスト③）	予習：教科書 150-152 頁 復習：単語帳の整理
6	様々な実践モデルとアプローチ③	機能的アプローチについて学ぶ。（単語帳提出①）	予習：教科書 153-155 頁 復習：小テストの準備
7	様々な実践モデルとアプローチ④	問題解決アプローチについて学ぶ。（小テスト④）	予習：教科書 156-158 頁 復習：小テストの準備
8	様々な実践モデルとアプローチ⑤	課題中心アプローチについて学ぶ。（小テスト⑤）	予習：教科書 159-151 頁 復習：小テストの準備
9	様々な実践モデルとアプローチ⑥	危機介入アプローチについて学ぶ。（小テスト⑥）	予習：教科書 162-164 頁 復習：小テストの準備
10	様々な実践モデルとアプローチ⑦	行動変容アプローチについて学ぶ。（小テスト⑦）	予習：教科書 165-167 頁 復習：小テストの準備
11	様々な実践モデルとアプローチ⑧	エンパワメントアプローチについて学ぶ。（小テスト⑧）	予習：教科書 174-177 頁 復習：小テストの準備
12	様々な実践モデルとアプローチ⑨	ナラティブアプローチについて学ぶ。（小テスト⑨）	予習：教科書 178-181 頁 復習：単語帳の整理
13	スーパービジョン	スーパービジョンとコンサルテーションの基礎とその違いについて学ぶ。（単語帳提出②）	予習：教科書 200-213 頁 復習：小テストの準備
14	相談援助と個人情報の保護、相談援助における情報通信技術の活用	個人情報保護の基礎概念、原則と制度、またソーシャルワークにおける ICT の活用と留意点について学ぶ。（小テスト⑩）	予習：教科書 241-265 頁 復習：単語帳の最終整理
15	まとめ	受講生自身による前期の振り返りとまとめを行う。	予習：前期の振り返り 復習：前期の復習
16	定期試験	試験	